



IIXIL

リビング建材 オープン用金属手すり〈階段用〉 取付け説明書

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 思わぬケガや事故につながりますので、下記事項をお守りください。
 - ・当商品は屋内専用です。屋外や浴室内などに使用しないでください。
 - ・店舗など使用頻度の激しい所では使用しないでください。
 - ・丸棒手すりは壁用金具、接続ブラケット、エンドキャップの奥まで差込んで固定してください。奥まで差込んでないと丸棒手すり脱落の原因になるおそれがあります。
 - ・ねじを固定する際には、指定の下穴をあけてください。下穴をあけないと材割れ・取付け強度不足により手すり脱落の原因になるおそれがあります。

■取付け前の確認

【検品について】

●納入時に各部材を必ず検品してください。万一、製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(取付け完了後の色調・キズなどによる交換はできません。)

■取付け上のおお願い

【使用する工具の確認】

- 電動ドライバー（クラッチ付き）…部材・部品取付け用
- キリ… $\phi 3.5$ （親柱固定部品、親柱下部ベース、子柱下カバー取付け用）、 $\phi 2.5$ （丸棒手すり取付け用）
- スケール、水準器、下げ振り…寸法出し用、水平・垂直出し用

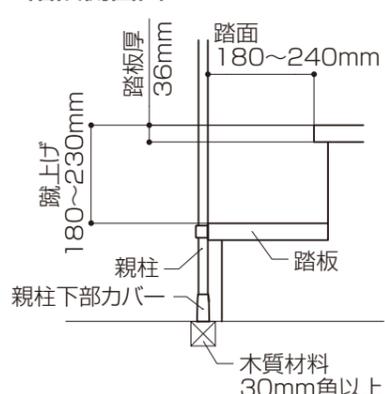
【取付け時の確認】

- 本製品の組立て・取付け時にはクラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転・ねじの頭がとぶ・ねじ頭がつぶれたりする場合があります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱のねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、部材の垂下がり・ゆがみ・踏み鳴りなどの原因となります。

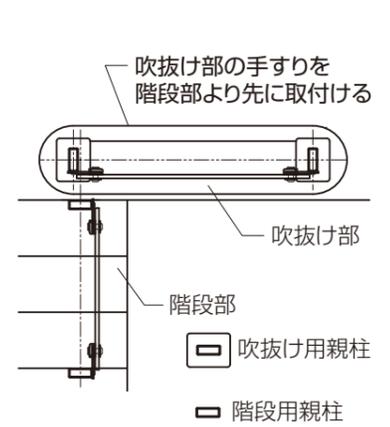
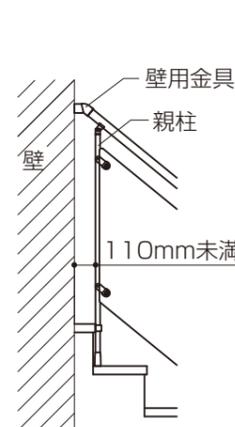
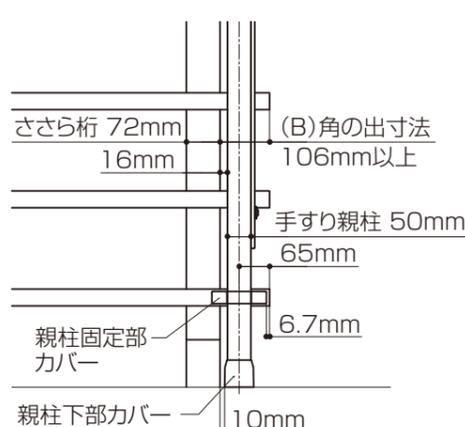
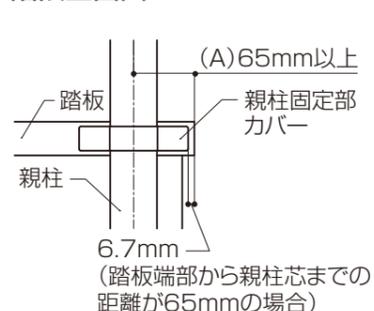
【寸法・構造・その他の確認】

- 親柱を取付ける下部には30mm角以上の木質材料を使用してください。
- 階段の踏面は180mm～240mm、蹴上げは180mm～230mmの範囲であること。
- 階段踏板端部より親柱センターまで(A)65mm以上必要です。
- ささら桁に取付ける場合、角の出寸法(B)を106mm以上とってください。
- 手すり親柱と壁の間隔は110mm未満にしてください。
- 踏板の段鼻形状がR形状の階段には取付けることができません。
- 手すりの外側に壁がくる場合、400mm以上（丸棒手すり固定用、パネル固定用スペース）の開口寸法が必要です。
- パネルタイプの階段用手すりとは吹抜け用手すりを直行して取付ける場合、吹抜け用手すりを先に取付けてください。階段用手すりを先に取付けると吹抜け用手すりのパネルが取付けできません。
- 階段用手すりを廊下、踊り場、吹抜け部などの水平部分に取付けすることはできません。
- 木造在来、2×4用です。鉄骨造納まりには直接対応しておりませんので、補強材（梁・大引きの代用となるもの）を施工部位の間に取付けてください。
- 樹脂パネルはガラスに比べ、キズ・擦れ・汚れなどが付きやすい材料です。取扱いには十分注意してください。

階段側面図



階段正面図

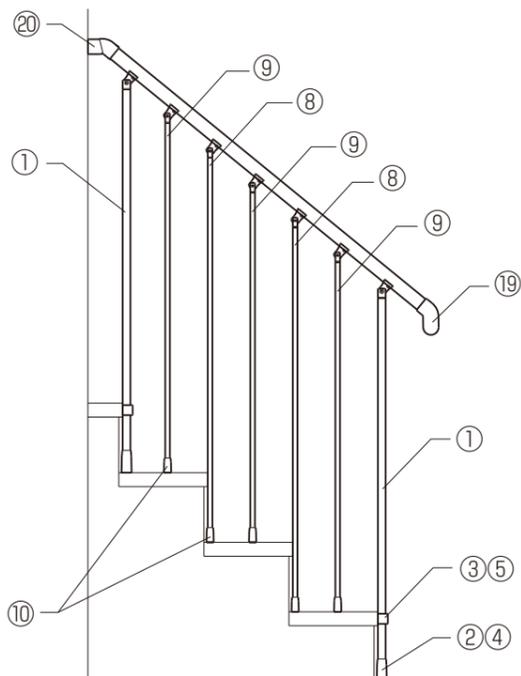


■取付け後の確認

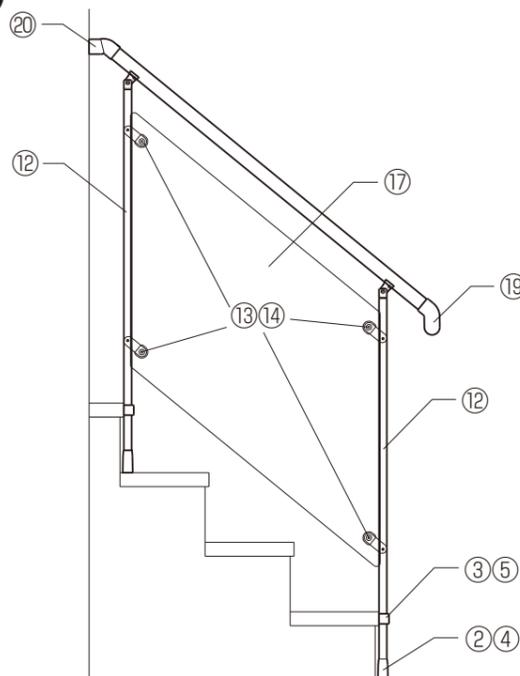
- 手すり取付け後、部品・部材にガタツキがないか、ねじの締付けを点検してください。
- 手すり取付け後、ねじにバリが出てないか指で触って点検してください。

■各部の名称と梱包セット内容

■階段用縦棧タイプ
(4段上り切り)



■階段用パネルタイプ
(4段上り切り)



製品名称	部品名称	数量	備考	
縦棧タイプ 親柱 2本セット	① 縦棧タイプ親柱	2本		
	② 親柱下部カバー	2個		
	③ 親柱固定部カバー	2個		
	④ 親柱下部ベース	2個		
	⑤ 親柱固定部品	2個		
	⑥ 親柱固定用ねじセット	2セット	ナベタッピングφ4.5×30 6本×2 トラスM5×12 2本×2	
	⑦ 手すり固定用ねじ	4本	丸皿タッピングφ3.5×20	
縦棧タイプ 親柱 3本セット	① 縦棧タイプ親柱	3本		
	② 親柱下部カバー	3個		
	③ 親柱固定部カバー	3個		
	④ 親柱下部ベース	3個		
	⑤ 親柱固定部品	3個		
	⑥ 親柱固定用ねじセット	3セット	ナベタッピングφ4.5×30 6本×3 トラスM5×12 2本×3	
	⑦ 手すり固定用ねじ	6本	丸皿タッピングφ3.5×20	
縦棧タイプ 子柱 3本セット	⑧ 子柱(L991)	1本	ガタツキ防止キャップ付き	
	⑨ 子柱(L877)	2本	ガタツキ防止キャップ付き	
	⑩ 子柱下カバー	3個		
	⑪ 子柱固定用ねじ	3本	ナベタッピングφ4.5×30	
	⑦ 手すり固定用ねじ	6本	丸皿タッピングφ3.5×20	
	縦棧タイプ 子柱 5本セット	⑧ 子柱(L991)	2本	ガタツキ防止キャップ付き
		⑨ 子柱(L877)	3本	ガタツキ防止キャップ付き
⑩ 子柱下カバー		5個		
⑪ 子柱固定用ねじ		5本	ナベタッピングφ4.5×30	
⑦ 手すり固定用ねじ		10本	丸皿タッピングφ3.5×20	

製品名称	部品名称	数量	備考
縦棧/パネル タイプ 共通部品	⑯ 接続ブラケット	1個	丸皿タッピングφ3.5×20 2本 テクスねじφ4×19 1本
	⑰ エンドキャップ	1個	丸皿タッピングφ3.5×20 2本
	⑱ 壁用金具	1個	丸皿タッピングφ3.5×20 1本 皿タッピングφ3.5×40 1本

製品名称	部品名称	数量	備考
縦棧タイプ 親柱 端部用 2本セット	⑫ パネルタイプ親柱	2本	
	② 親柱下部カバー	2個	
	③ 親柱固定部カバー	2個	
	④ 親柱下部ベース	2個	
	⑤ 親柱固定部品	2個	
	⑥ 親柱固定用ねじセット	2セット	ナベタッピングφ4.5×30 6本×2 トラスM5×12 2本×2
	⑦ 手すり固定用ねじ	4本	丸皿タッピングφ3.5×20
縦棧タイプ 親柱 端部用 2本セット	⑬ パネル取付け用 スペーサー1	1セット	パネル取付け用スペーサー1 4枚 ナベM5×12 4本
	⑭ パネル緩衝材 スペーサー	1セット	パネル緩衝ゴム 4個 パネル緩衝ゴム用ワッシャー 4個 パネル緩衝材スペーサー 4個 ボルト用スペーサー 4個 セットキャップボルト 4本 セットキャップカバー 4個
	⑫ パネルタイプ親柱	3本	
	② 親柱下部カバー	3個	
	③ 親柱固定部カバー	3個	
	④ 親柱下部ベース	3個	
	⑤ 親柱固定部品	3個	
縦棧タイプ 親柱 端部用 3本セット	⑥ 親柱固定用ねじセット	3セット	ナベタッピングφ4.5×30 6本×3 トラスM5×12 2本×3
	⑦ 手すり固定用ねじ	6本	丸皿タッピングφ3.5×20
	⑬ パネル取付け用 スペーサー1	1セット	パネル取付け用スペーサー1 4枚 ナベM5×12 4本
	⑮ パネル取付け用 スペーサー2	1セット	パネル取付け用スペーサー2 2枚 ナベM5×12 2本
	⑭ パネル緩衝材 スペーサー	2セット	パネル緩衝ゴム 4個×2 パネル緩衝ゴム用ワッシャー 4個×2 パネル緩衝材スペーサー 4個×2 ボルト用スペーサー 4個×2 セットキャップボルト 4本×2 セットキャップカバー 4個×2
	⑫ パネルタイプ親柱	2本	
	② 親柱下部カバー	2個	
縦棧タイプ 親柱 中間用 2本セット	③ 親柱固定部カバー	2個	
	④ 親柱下部ベース	2個	
	⑤ 親柱固定部品	2個	
	⑥ 親柱固定用ねじセット	2セット	ナベタッピングφ4.5×30 6本×2 トラスM5×12 2本×2
	⑦ 手すり固定用ねじ	4本	丸皿タッピングφ3.5×20
	⑮ パネル取付け用 スペーサー2	1セット	パネル取付け用スペーサー2 4枚 ナベM5×12 4本
	⑭ パネル緩衝材 スペーサー	2セット	パネル緩衝ゴム 4個×2 パネル緩衝ゴム用ワッシャー 4個×2 パネル緩衝材スペーサー 4個×2 ボルト用スペーサー 4個×2 セットキャップボルト 4本×2 セットキャップカバー 4個×2
パネル2段用	⑯ パネル2段用	1枚	プレカット加工品
パネル3段用	⑰ パネル3段用	1枚	プレカット加工品

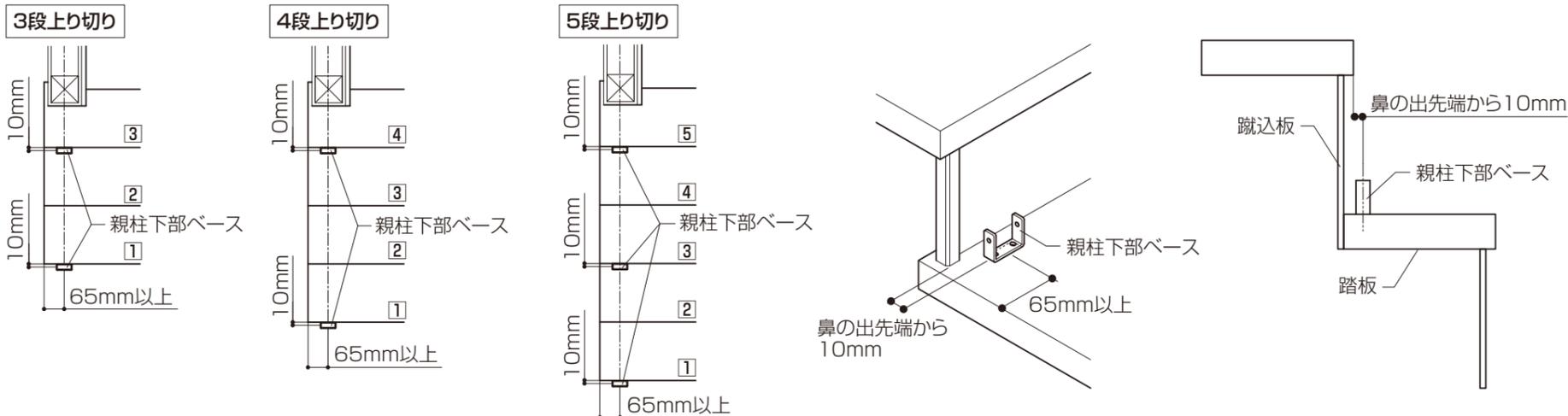
取付け順序

【縦桟タイプ】（パネルタイプはP.5～P.7を参照してください。）

1 割付け

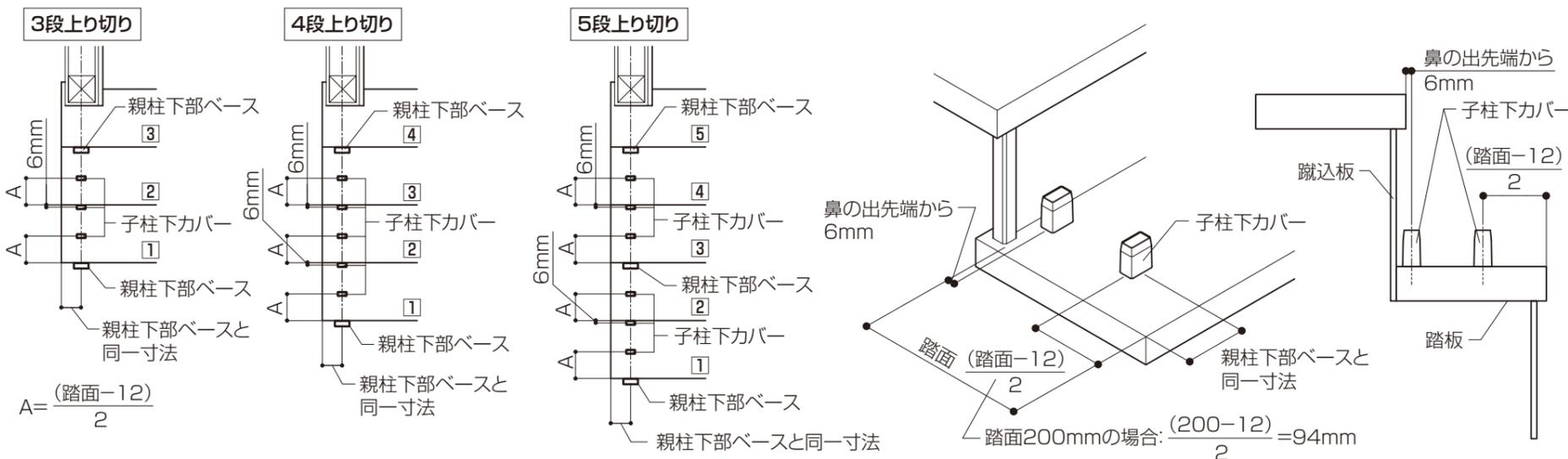
①親柱下部ベースの芯位置決めを行います。（下図参照）

●親柱下部ベース取付け位置(階段上面図)



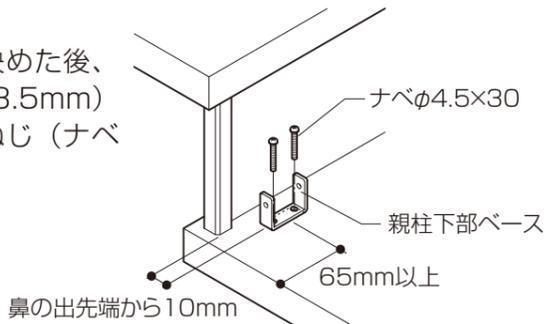
②子柱下カバーの芯位置決めを行います。親柱下部ベースの芯位置に合わせて位置決めを行います。（下図参照）

●子柱下カバー取付け位置(階段上面図)

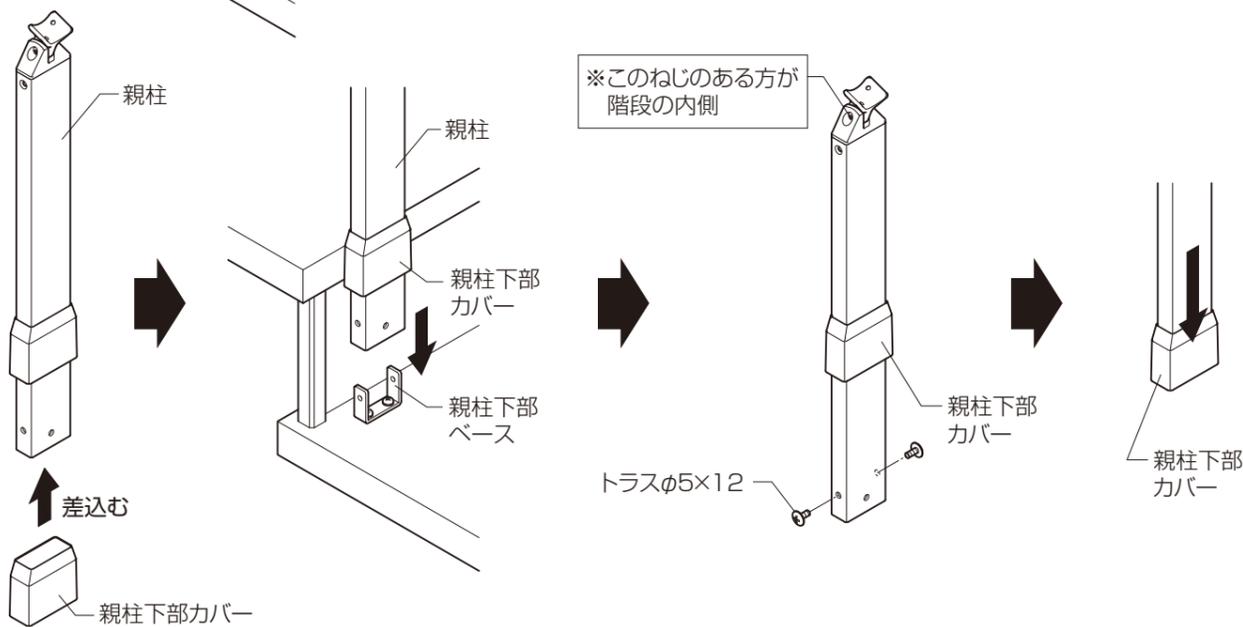


2 親柱の取付け

①割付けにしたがって取付け位置を決めた後、ねじ止め位置にあらかじめ下穴（φ3.5mm）をあけてから、親柱下部ベースをねじ（ナベφ4.5×30）で固定します。

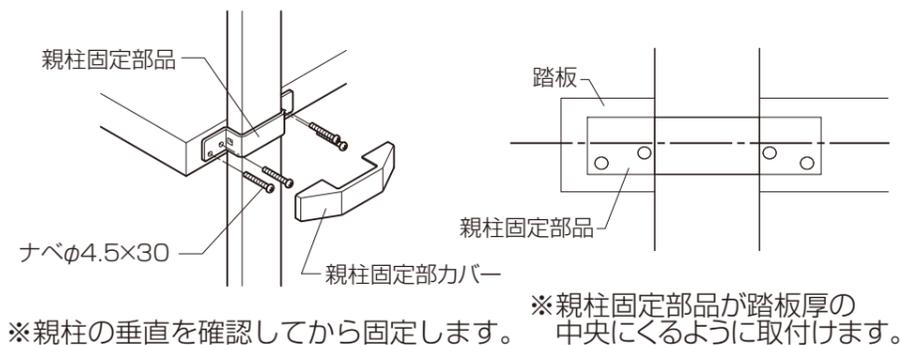
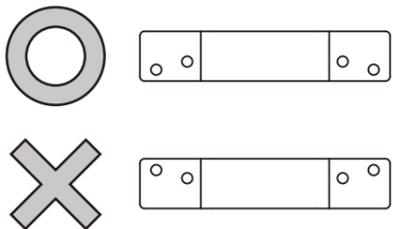


②親柱に親柱下部カバーを差込んでから、親柱を親柱下部ベースに差込み、ねじ（トラスM5×12）で固定します。親柱には取付け方向がありますのでご注意ください。（右図の※印参照）親柱を踏板段鼻面に押当てて垂直になっているかご確認ください。親柱が傾いているときは、親柱下部ベースの止めねじをゆるめ位置調整を行います。以上確認後、親柱下部カバーを下げます。



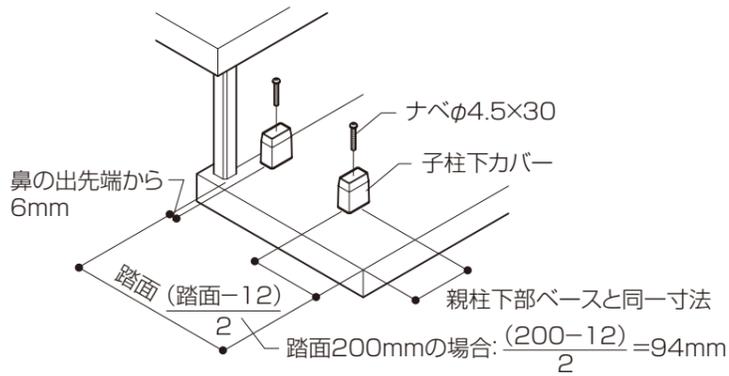
③親柱を踏板段鼻面へ親柱固定部品であてがい垂直を確認してからねじ（ナベφ4.5×30）で固定します。ねじ止め位置にあらかじめ下穴（φ3.5mm）をあけます。固定後、親柱固定部カバーをはめ込みます。

※親柱固定部品には取付け方向がありますので、下図を参考に取付けてください。

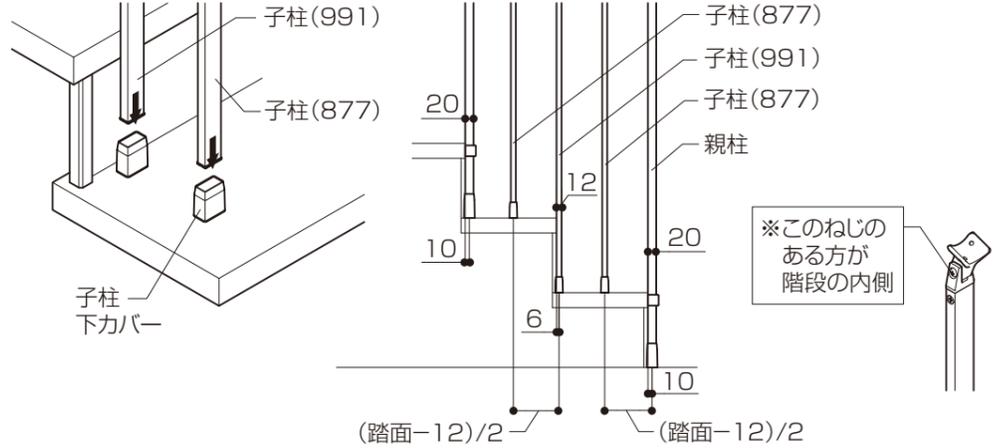


3 子柱の取付け

①割付けにしたがって取付け位置を決めた後、ねじ止め位置に
あらかじめ下穴 (φ3.5mm) をあけてから、下カバーをね
じ (ナベφ4.5×30) で固定します。



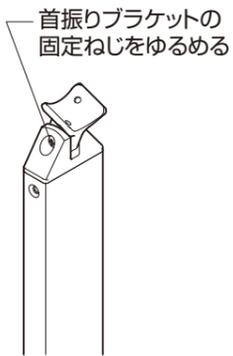
②子柱を子柱下カバーに差込みます。踏板中央部には子柱 (877 全長が短い方)、
踏板段鼻部には子柱 (991 全長が長い方) を差込みます。
※子柱も親柱同様、取付け方向がありますのでご注意願います。(下図の※印参照)



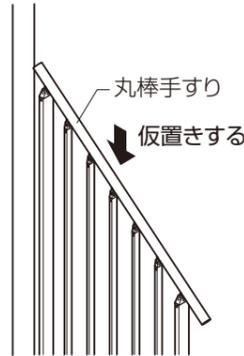
4 丸棒手すり(φ35)の取付け

■壁用金具(別売)とエンドキャップ(別売)を取付ける場合

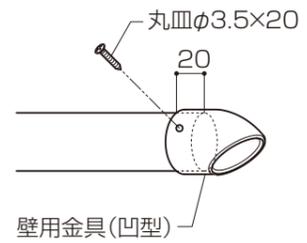
①首振りブラケット固定ねじを全て
ゆるめて首振りブラケットが自由
に動くようにします。



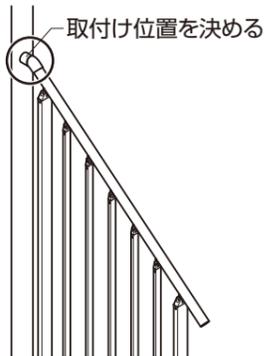
②丸棒手すりを首振りブラケットの上に仮置きし、
壁用金具とエンドキャップの取付けしろを見込
んで丸棒手すりの寸法出しを行います。



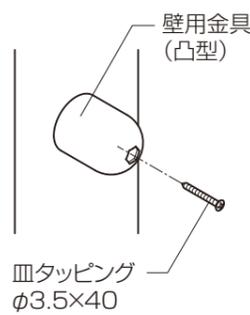
③丸棒手すりの先端に壁用金具 (凹型) を差込み、
ねじ (丸皿φ3.5×20) で固定します。
丸棒手すりにはあらかじめ、下穴 (φ2.5mm)
をあけます。



④壁用金具 (凸型) の取付け位置を
丸棒手すりを仮置きして決めます。



⑤壁に壁用金具 (凸型) をねじ (丸皿φ3.5×40)
で固定します。



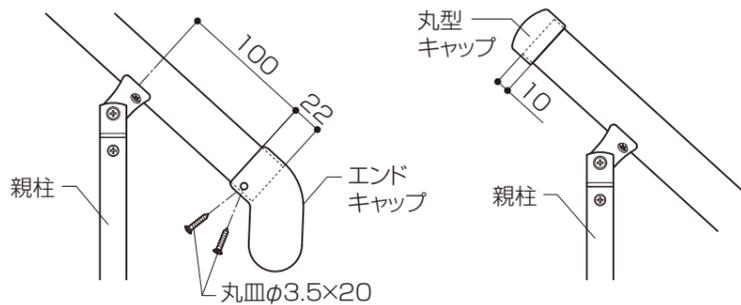
⑥丸棒手すりの壁用金具 (凹型) を壁面の壁用金
具 (凸型) に合わせて、丸棒手すりを首振りブ
ラケットにのせ、ねじ (丸皿φ3.5×20) で
固定します。丸棒手すりにはあらかじめ、下穴
(φ2.5mm) をあけます。丸棒手すりと首振
りブラケットの間にすき間が出ないように、両
側から調整しながらねじを取付けます。



⑦手すり丸棒固定後、首振りブラケッ
ト固定ねじを全て本締めします。



⑧手すりのエンドにエンドキャップをはめ込み、ねじ (丸皿
φ3.5×20) で固定します。丸棒手すりにはあらかじめ、
下穴 (φ2.5mm) をあけます。

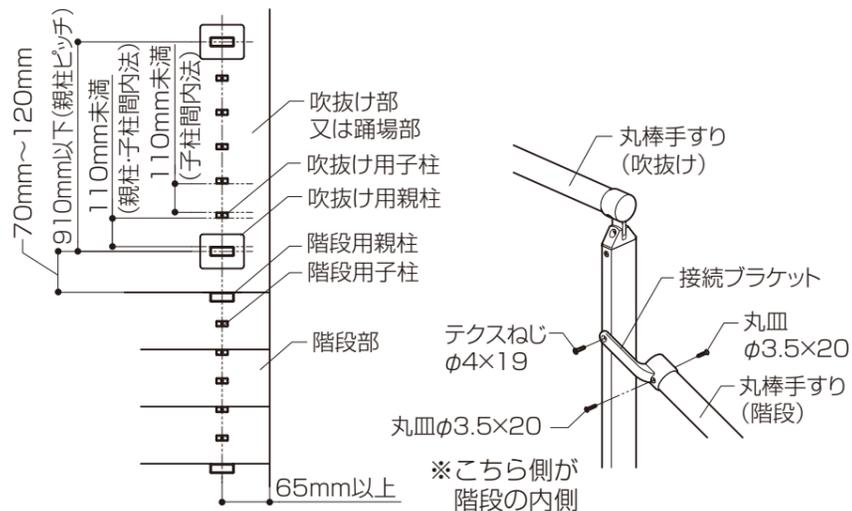


※壁用金具を使用しない場合は丸型キャップを使用します。丸型キャップの取付け方法は「手すり丸型」の取付け説明書を参照してください。
※丸棒手すりを接続する場合はP.7を参照してください。

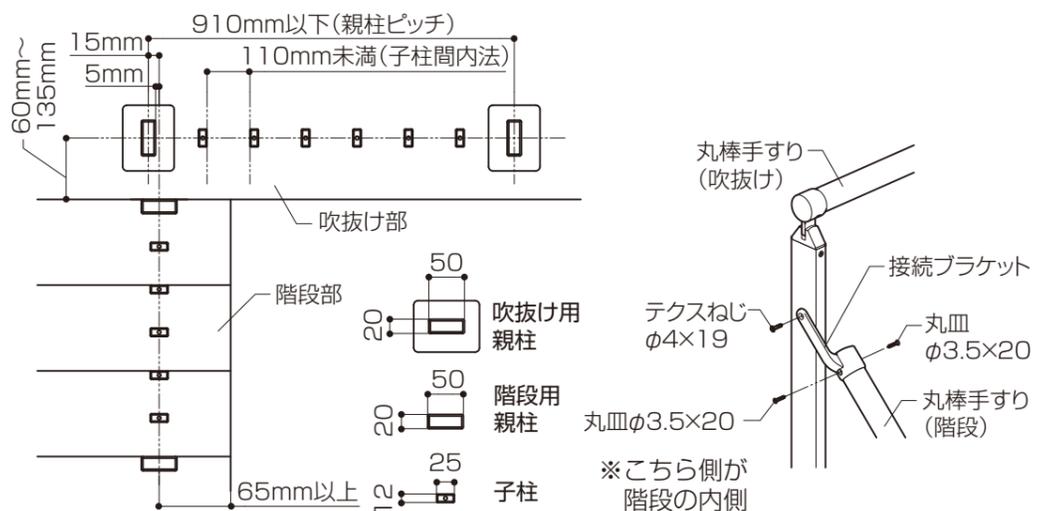
■吹抜け手すりと接続する場合

- ①首振りブラケット固定ねじを全てゆるめて首振りブラケットが自由に動くようにします。
- ②丸棒手すりを首振りブラケットの上に仮置きし、壁用金具とエンドキャップの取付けしろを見込んで丸棒の寸法出しを行います。
- ③手すり丸棒の先端に接続ブラケットを差込み、ねじ（丸皿φ3.5×20）で固定します。
丸棒手すりにはあらかじめ、下穴（φ2.5mm）をあけます。
- ④接続ブラケットを吹抜け用親柱に合わせた後、丸棒手すりをねじ（丸皿φ3.5×20）で固定します。
丸棒手すりにはあらかじめ、下穴（φ2.5mm）をあけます。
丸棒手すりとは首振りブラケットの間にすき間が出ないように、両側から調整しながらねじを取付けます。
- ⑤接続ブラケットと吹抜け用親柱をねじ（テクスねじφ4×19）で固定します。

【パターン1】階段手すりと吹抜け手すりが同一ラインに取付く場合



【パターン2】階段手すりと吹抜け手すりが直行して取付く場合

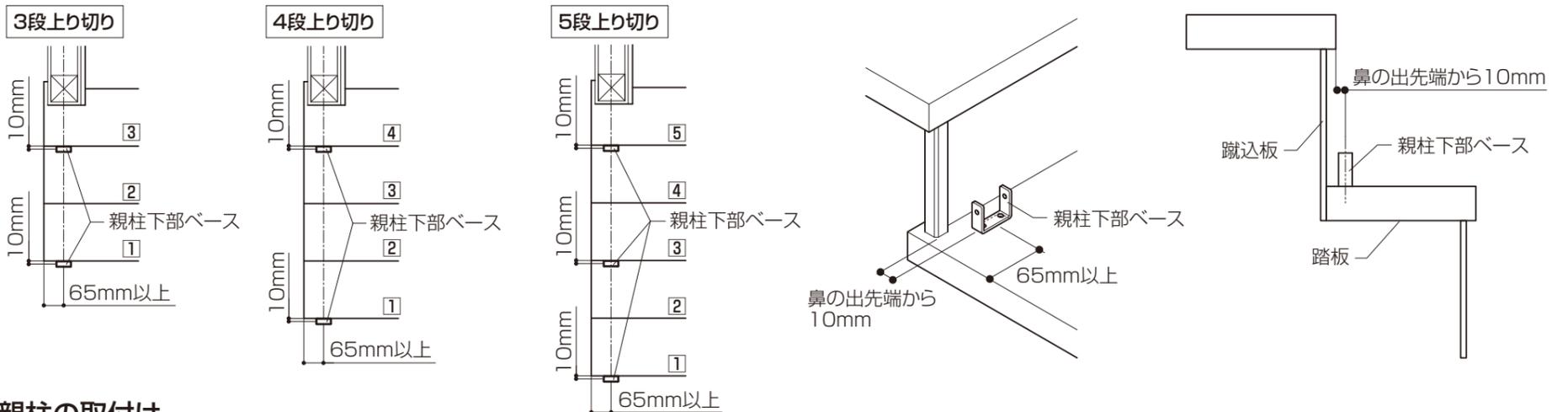


【パネルタイプ】（縦桟タイプはP.3~P.4を参照してください。）

1 割付け

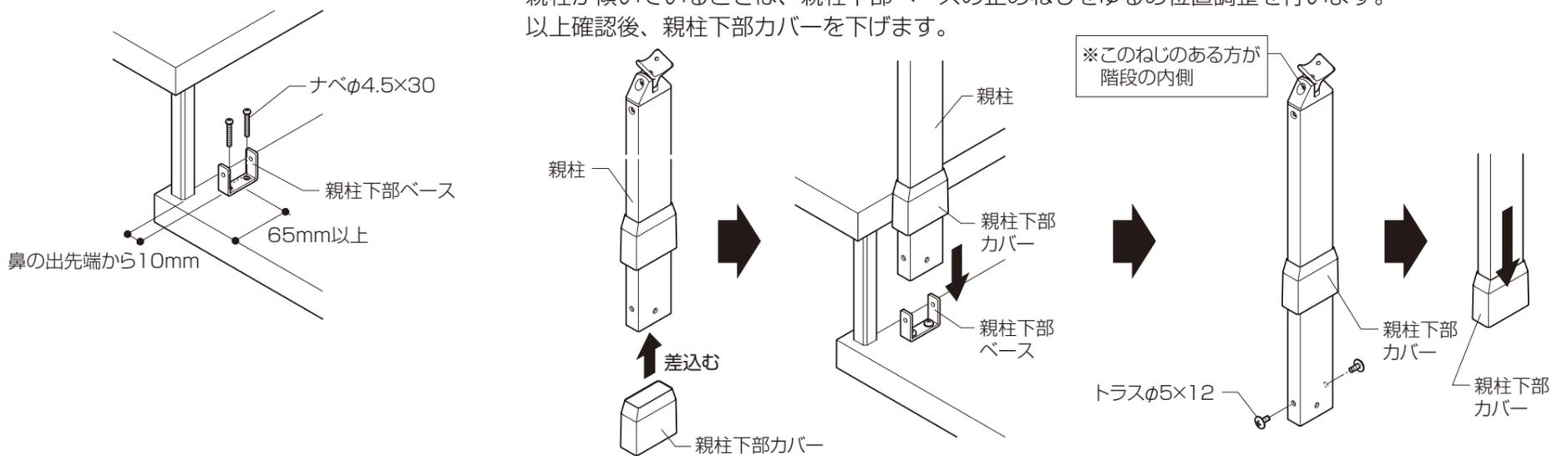
- 親柱下部ベースの芯位置決めを行います。（下図参照）

●親柱下部ベース取付け位置（階段上面図）



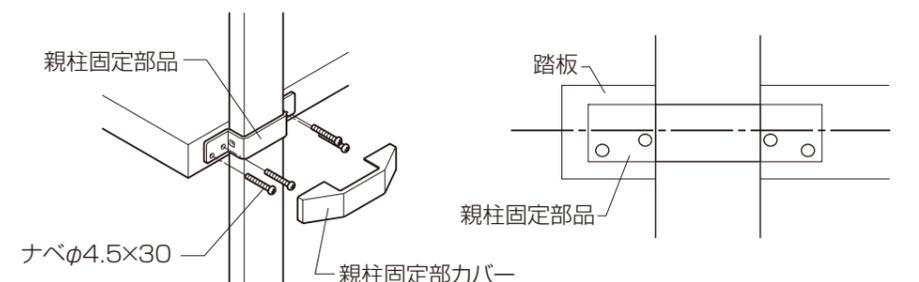
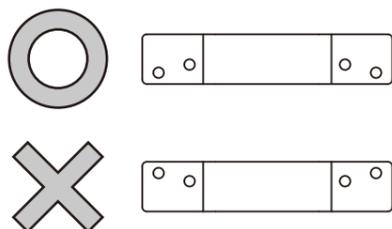
2 親柱の取付け

- ①ねじ止め位置にあらかじめ下穴（φ3.5mm）をあけてから、親柱下部ベースをねじ（ナベφ4.5×30）で固定します。
- ②親柱に親柱下部カバーを差込んでから、親柱を親柱下部ベースに差込み、ねじ（トラスM5×12）で固定します。親柱には取付け方向がありますのでご注意願います。（下図の※印参照）
親柱を踏板段鼻面に押当てて垂直になっているかご確認願います。
親柱が傾いているときは、親柱下部ベースの止めねじをゆるめ位置調整を行います。
以上確認後、親柱下部カバーを下げます。



- ③親柱を踏板段鼻面へ親柱固定部品であてがい垂直を確認してからねじ（ナベφ4.5×30）で固定します。ねじ止め位置にあらかじめ下穴（φ3.5mm）をあけます。固定後、親柱固定部カバーをはめ込みます。

※親柱固定部品には取付け方向がありますので、下図を参考に取付けてください。

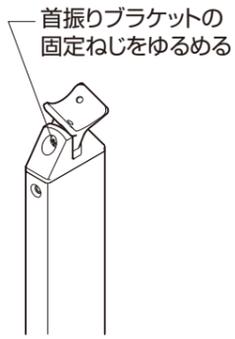


※親柱固定部品が踏板厚の中央にくるように取付けます。

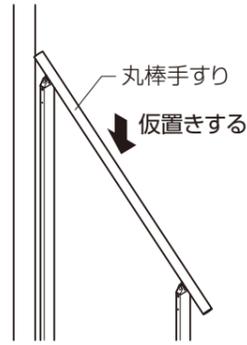
3 丸棒手すり(φ35)の取付け

■壁用金具(別売)とエンドキャップ(別売)を取付ける場合

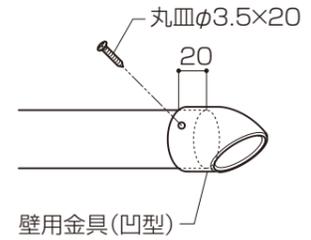
①首振りブラケット固定ねじを全てゆるめて首振りブラケットが自由に動くようにします。



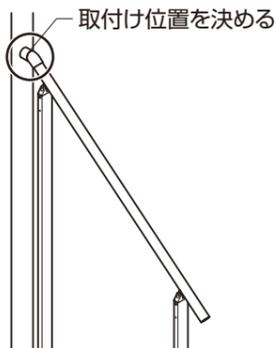
②丸棒手すりを首振りブラケットの上に仮置きし、壁用金具とエンドキャップの取付けしろを見込んで丸棒手すりの寸法出しを行います。



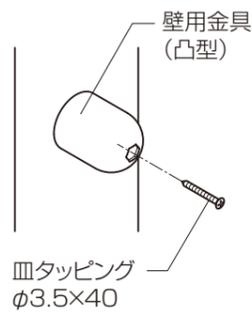
③丸棒手すりの先端に壁用金具(凹型)を差し込み、ねじ(丸皿φ3.5×20)で固定します。丸棒手すりにはあらかじめ、下穴(φ2.5mm)をあけます。



④壁用金具(凸型)の取付け位置を丸棒手すりを仮置きして決めます。



⑤壁に壁用金具(凸型)をねじ(丸皿φ3.5×40)で固定します。



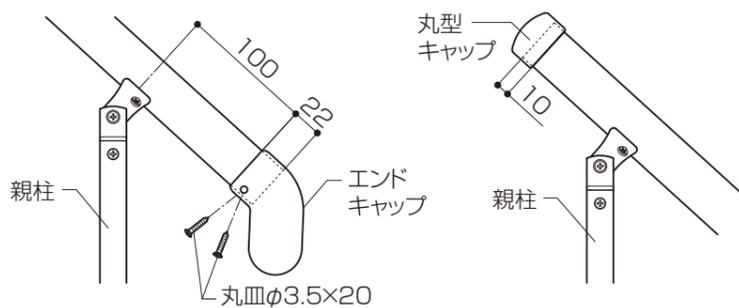
⑥丸棒手すりの壁用金具(凹型)を壁面の壁用金具(凸型)に合わせて、丸棒手すりを首振りブラケットにのせ、ねじ(丸皿φ3.5×20)で固定します。丸棒手すりにはあらかじめ、下穴(φ2.5mm)をあけます。丸棒手すりとは首振りブラケットの間にすき間が出ないように、両側から調整しながらねじを取付けます。



⑦手すり丸棒固定後、首振りブラケット固定ねじを全て本締めします。



⑧手すりのエンドにエンドキャップをはめ込み、ねじ(丸皿φ3.5×20)で固定します。丸棒手すりにはあらかじめ、下穴(φ2.5mm)をあけます。



※壁用金具を使用しない場合は丸型キャップを使用します。丸型キャップの取付け方法は「手すり丸型」の取付け説明書を参照してください。
 ※丸棒手すりを接続する場合はP.7を参照してください。

■吹抜け手すりと接続する場合

①首振りブラケット固定ねじを全てゆるめて首振りブラケットが自由に動くようにします。

②丸棒手すりを首振りブラケットの上に仮置きし、壁用金具とエンドキャップの取付けしろを見込んで丸棒の寸法出しを行います。

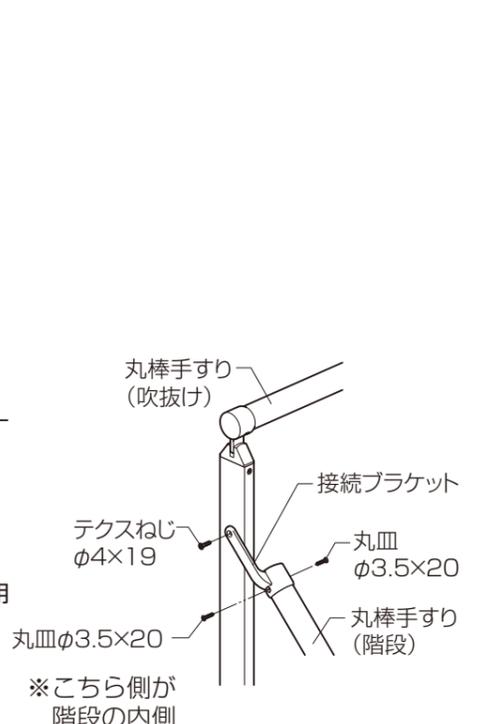
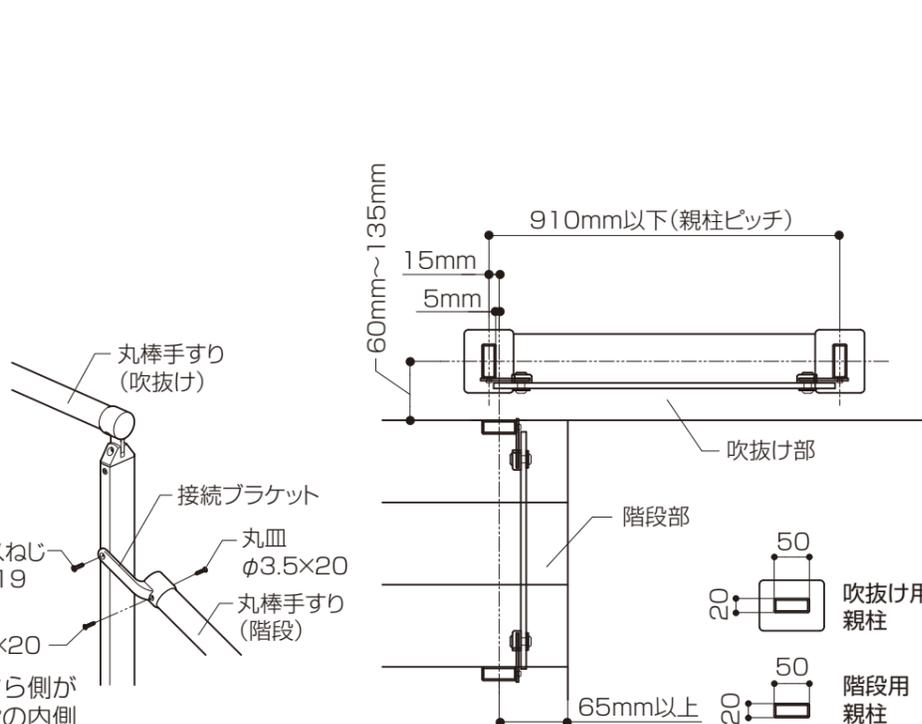
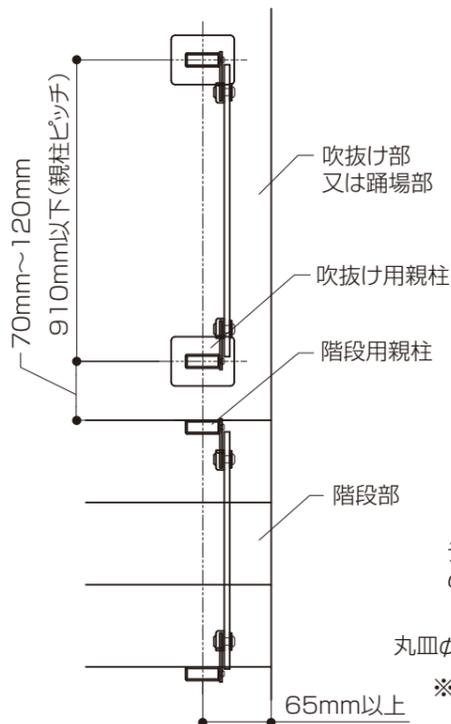
③手すり丸棒の先端に接続ブラケットを差し込み、ねじ(丸皿φ3.5×20)で固定します。丸棒手すりにはあらかじめ、下穴(φ2.5mm)をあけます。

④接続ブラケットを吹抜け用親柱に合わせた後、丸棒手すりをねじ(丸皿φ3.5×20)で固定します。丸棒手すりにはあらかじめ、下穴(φ2.5mm)をあけます。丸棒手すりとは首振りブラケットの間にすき間が出ないように、両側から調整しながらねじを取付けます。

⑤接続ブラケットと吹抜け用親柱をねじ(テクスねじφ4×19)で固定します。

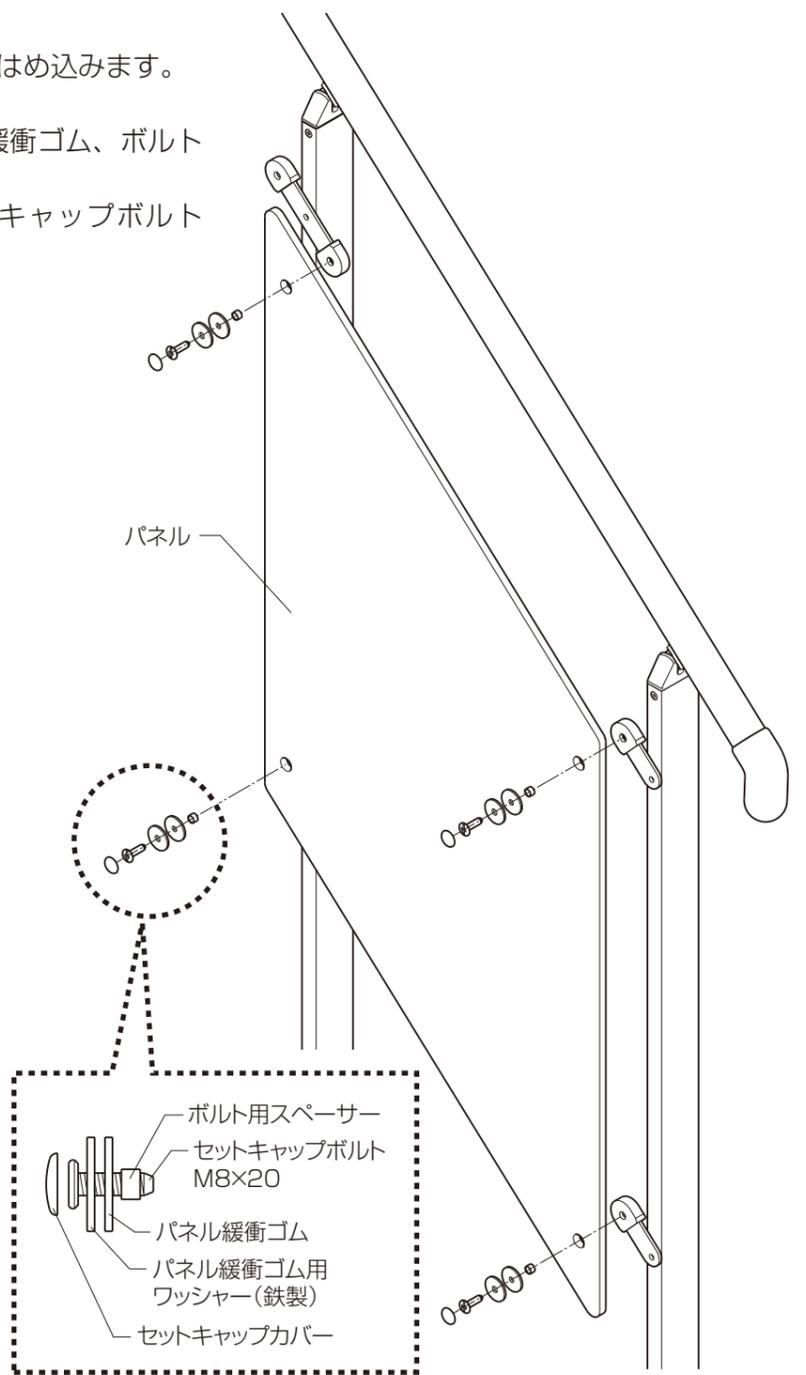
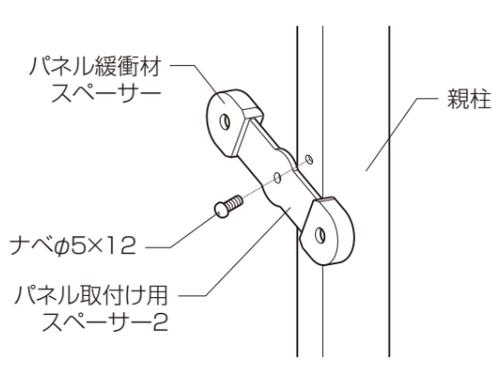
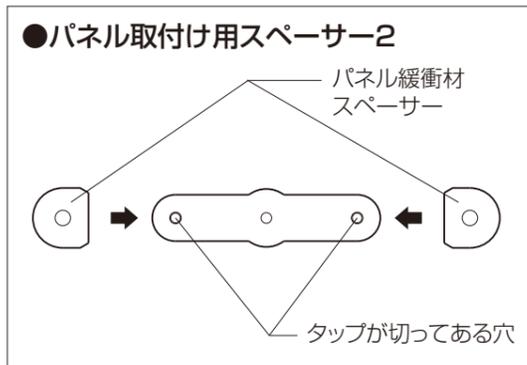
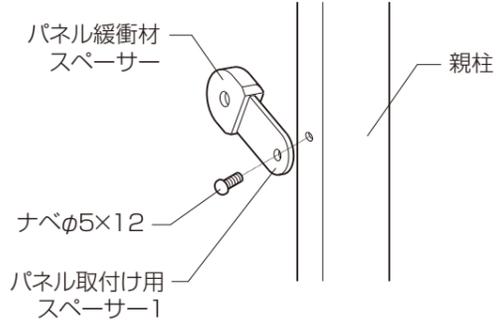
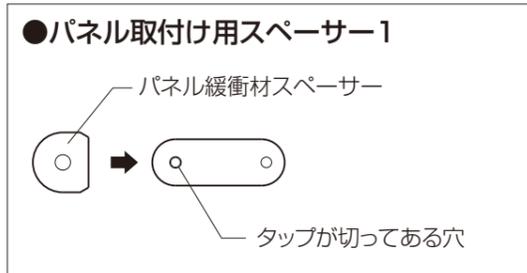
【パターン1】階段手すりとは吹抜け手すりが同一ラインに取付く場合

【パターン2】階段手すりとは吹抜け手すりが直行して取付く場合



4 パネルの取付け

- ①パネル取付け用スペーサー1、2のタップが切っている穴にパネル緩衝材スペーサーをはめ込みます。
- ②親柱にパネル取付け用スペーサー1、2をねじ（ナベM5×12）で仮固定します。
- ③セットキャップボルト（M8×20）にパネル緩衝ゴム用ワッシャー（鉄製）、パネル緩衝ゴム、ボルト用スペーサーの順番にはめ込み、下図のようにパネルを挟込みボルトを仮固定します。
- ④パネルと親柱のすき間を見ながら位置調整をし、ねじ（ナベM5×12）、セットキャップボルト（M8×20）を本締めします。
- ⑤セットキャップボルト（M8×20）にセットキャップカバーを取付けます。



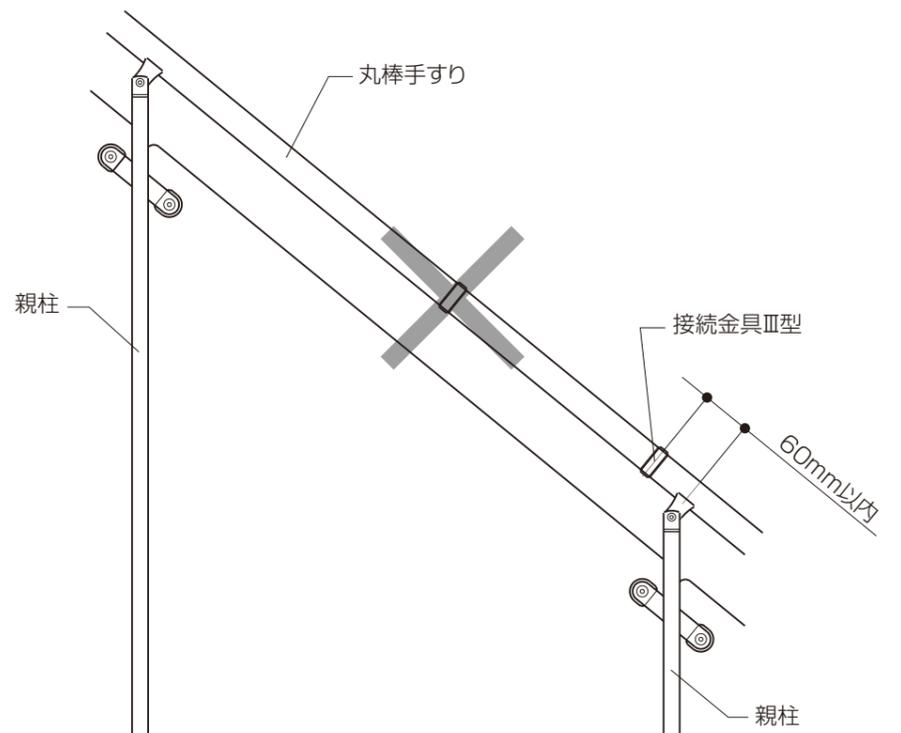
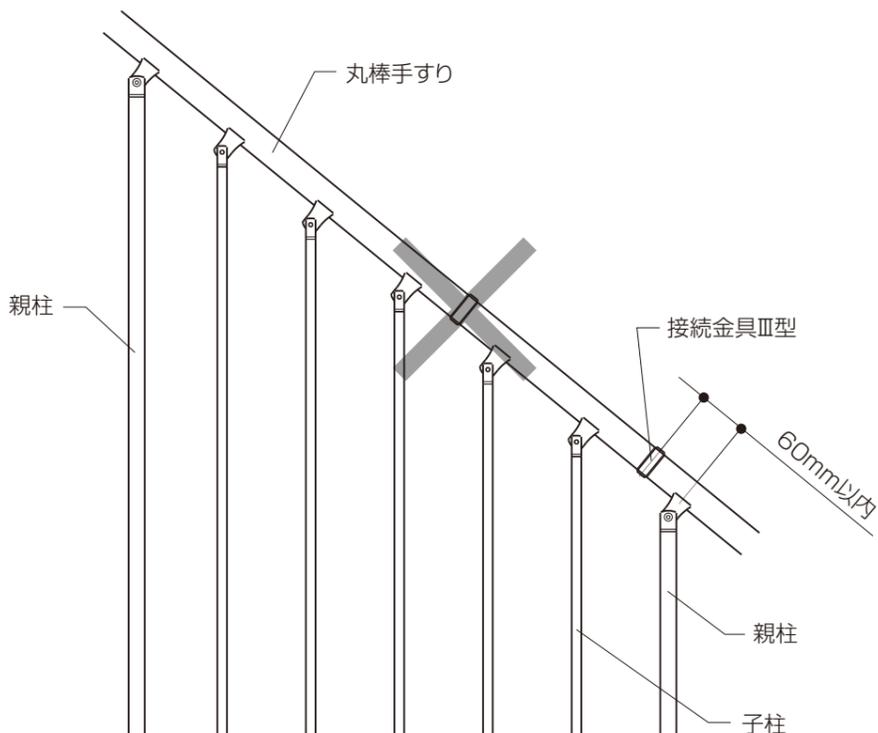
【縦桟タイプ・パネルタイプ共通】

■丸棒手すりを接続する場合

- 接続金具Ⅲ型を使用して接続します。接続金具Ⅲ型の取付け方法は「手すり丸型」の取付け説明書を参照してください。

▲注意

- 接続金具Ⅲ型は親柱間隔以内に1個を親柱芯より60mm以内に取付けてください。

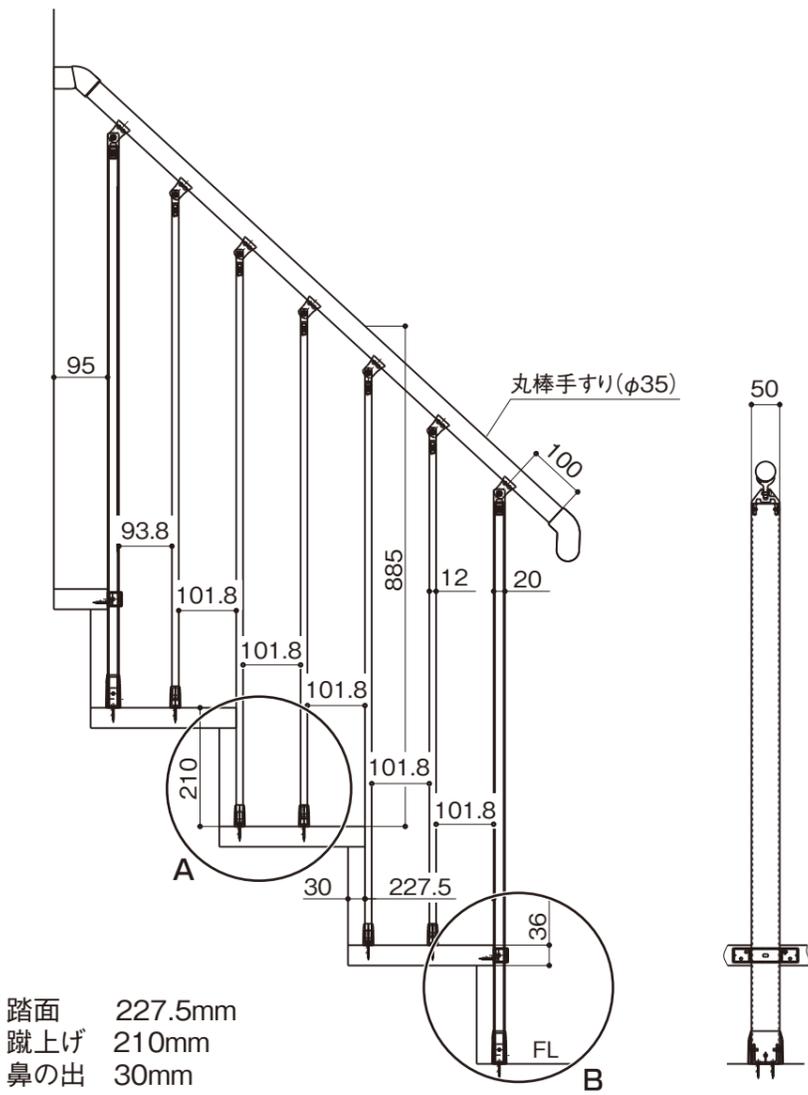


■取付け後の確認

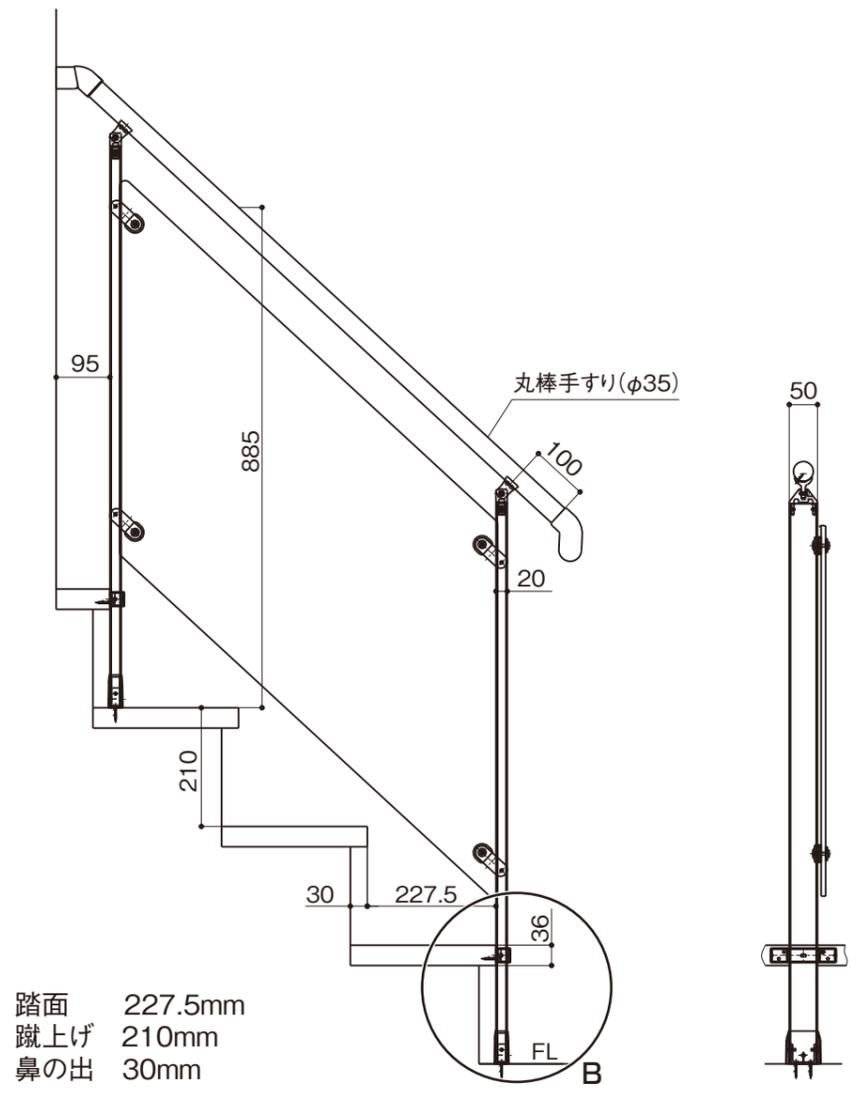
- 取付けが完了したら、手すりにガタツキがないか、ねじが確実に締結されているか確認します。ゆるみがあれば確実に締直します。

参考納まり図

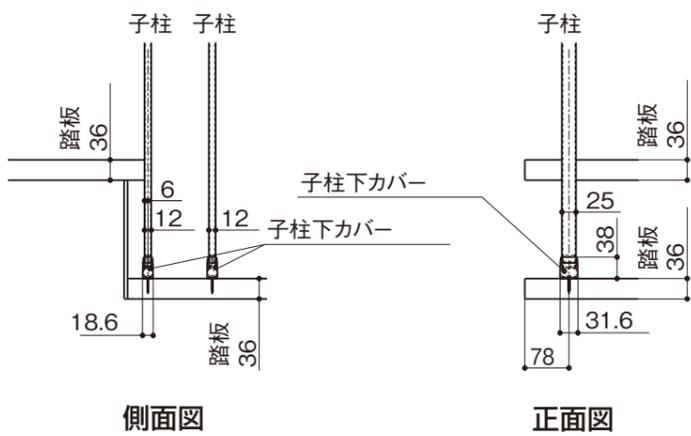
縦棧タイプ(4段上り切り)



パネルタイプ(4段上り切り)



●A子柱と踏板の納まり



●B親柱と踏板(床部)の納まり

